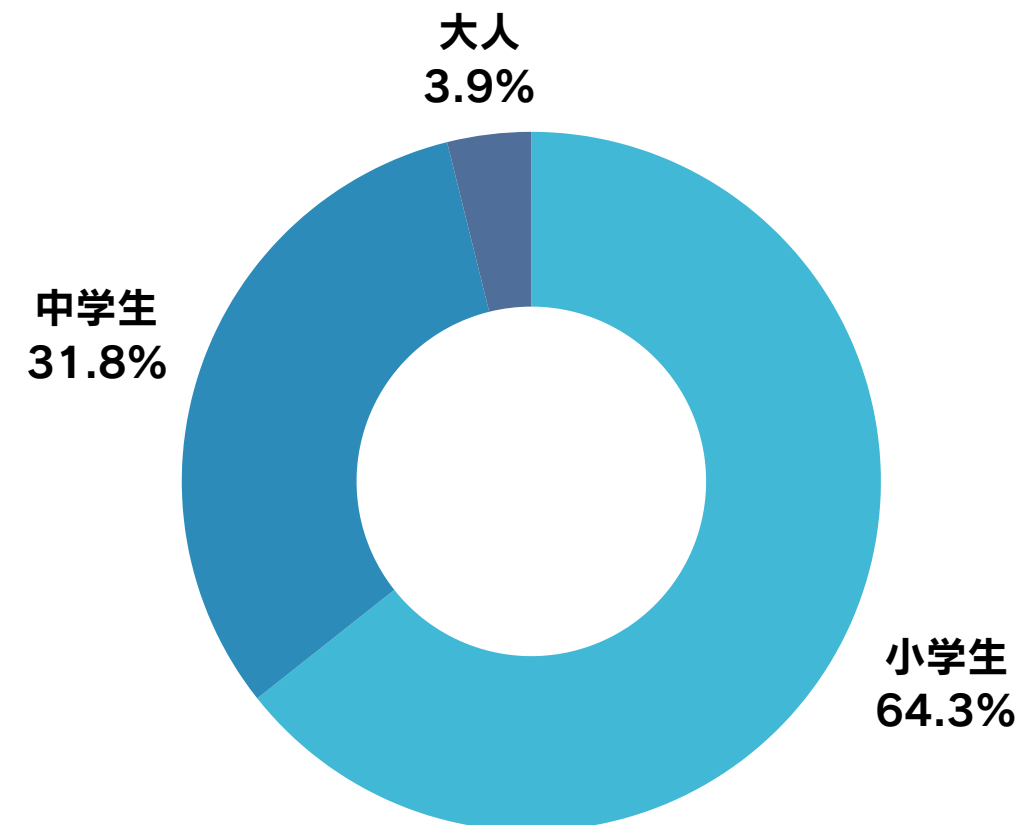


古民家で子どもたちと何でもない日々を重ねたい2025年4月の開放日数 **15日**一緒に時間をすごした人数 **123人**

子どもとともに

**わっか
月次報告書****2025年5月****68号**

急に暑くなったので、大型の扇風機を古民家と子どもたちの下校の道との境目に出した。去年は、暑くなると、これに涼んで帰っていく子がいた。ことしはどうだろう。彼らのためみたいに、それがわかるように何かをするのが苦手です。だから、古民家もただ開けているだけ。彼らが放課後などに来たいと思ったら来てくれる、それだけの場所。扇風機もそこに置いて回っているだけ。中学生が通りすぎて、しばらくすると小学生が帰ってくる。「あつい、限界」「涼しい」「やば」と扇風機にあたっていく。ひとりが当たると、他の子も、先にあたっている子の、おこぼれ風を浴びるように、横から顔をぬーんと前に差し出して扇風機に近づく。ほんのひととき当たると「いちについて、よーいどん」とダッシュで帰っていく。風に当たっていた時間を取り戻すように。

ご寄付について



寄付者（今年度のみ）

25人

あらたなご寄付者

0人

物品でのご寄付

ラーメン、お菓子

1人NPO法人
わっか



こどもたちは、土間をとおりぬけて、部屋に入ってきます。こどもたちが少ない時は、落ち着いて部屋に入ってくるような感じがあるので、比較的靴はそろっています。



まあ、こっちも揃っているほうと言えばそうだけど。それでも、子どもたちが多い時はとにかく部屋に入ろう！って感じがして、靴はあんまり揃っていないです。



2階がいつのまにか、肝試しスポットになっています。古い雛人形があり、こどもたち曰く「動いている」のだそうです。



扇風機をだしました。コンビニにあるような大型の扇風機。



こうやって部屋から子どもたちが帰ってくるのを見えます。



自転車を土間に入れる子があります。なんでだろうね。大事にしているからかなあ。



年間200日くらい放課後に古民家開放していても、一緒にすごす子どもはたぶん40人くらい。できるのってそれくらいなんよね。でも、それがいいんよ。こじんまりやるのがいいの